

2013年度の規則変更点及び規則の適用留意点 一覧表

(社)日本ホッケー協会 技術委員会 H25.3.1

11人・6人別	数	規則書 記載ページ・項	変更内容	実施方法・留意点
11人制 規則変更点	1	P19 2.4 注釈	選手の再入場のポイント制限	競技に関わることでフィールドの外に出たり、フィールドに戻ったりする場合（PCで守備者がフェイスマスクをつけるためにゴールの後ろに出るような場合）、再入場はフィールドのどの場所からでもできる。
	2	P20 3.3	キャプテンマーク（ソックス上部でもよいことが追加）	キャプテンは、上腕か肩、ソックスの上部のいずれかに、それが認識できる腕章が目立つものをつけなければならない。
	3	P25 5.1	試合の結果（試合終了前後の判定の変更） 日本では、この規則の適用は見合わせる	審判の判定直前に競技時間終了の場合、終了後であっても判定を下すことが可能。また、判定直後に競技時間終了の場合、その後判定変更が可能。 これは、ビデオアンパイアによる判定変更のことを重点に示しているため、日本ではこの規則の適用を見合わせる。
	4	P28 6.5 a	フリーのポイント 破線の外	フリーは、バックラインから15m以内の地域では行わない、なおかつ、サークルから5m以内の破線内のエリアでも行わないこととする。
	5	P30 8.1	オウンゴール	サークル内で攻撃側のプレイヤーによってプレイされるか、守備側のプレイヤーのスティックか身体にあたって、そのボールがサークルの外に出ることなく、ゴールラインを完全に通過した時に一点が与えられる。
	6	P32 9.7 注釈追加	守備者のハイスティック	上記オウンゴールに関する変更に伴い、ゴールに向かってくるボールに対して、ハイスティックでボールを止めたり、方向を変えたりすることが許される。
	7	P45 13.2 d e	FH フリック・スクープの使用可能	センターパス、ヒットイン、コーナー、フリーヒットでは、フリックやスクープを使ってボールを直接上げることが許された。しかし、ヒットで直接上げることは許されない。
	8	序文参照	FH変更に伴い、1m・セパレートアクションの項 削除	フリーヒット等で、味方にパスをする場合は、1m以上ボールを動かすということと、セルフパスにおいては、ボールを動かすこととドリブルの動作をはっきりと分けることの規則はなくなった。
	9	P55 13.9	PS時の「認定ゴール」文言が完全削除	認定されるゴールというのは存在するが、「認定ゴール」という言葉を削除した。
	10	P57 14.1 b	グリーンカード 2分退場（国際試合） 明記	国際大会では、グリーンカードは「2分間退場」を意味するが、グリーンカードの持つ意味は、あくまでも「警告」であることは認識していただきたい。
	11	P76 1.3 j	PSスポット距離測定方法の変更	ペナルティスポットの計測方法、《ゴールラインの「内側」から6.4m》であったものが、《ゴールラインの「外側」から6.475m》になった、実測距離の変更はない。
	12	P83 2	スティック仕様の変更	計測方法等についても詳細に記述しているが、実際購入はJHA認証シールが貼付していれば使用可能と判断する。
6人制 規則変更点	1	P104 2.3	選手交代（前規則の誤り部分訂正）	2011年度版の記載事項に不明確な部分があったものを明確化した。規則自体に変更はない。
	2	P106 3.3	キャプテンマーク	11人制と同様の扱いとする。
	3	P110 5.1	試合の結果（試合終了前後の判定の変更）	11人制と同様の扱いとする。
	4	P111 6.1~6.4	試合の開始方法 センターパス	フリーをやめて、11人制と同様にセンターパスで開始する。試合前に、トスによりボールが攻めるエリアの選択をする。試合中行われるフリーは、3回スティックを合わせる方式のままとする。
	5	P113 7.3	サイドラインからのヒットイン（前規則の誤り部分訂正）	2011年度版の記載事項に誤り部分があったものを訂正した。規則自体に変更はない。
	6	P115 8.1	オウンゴール	11人制と同様の扱いとする。
	7	P117 9.7 注釈追加	守備者のハイスティック	11人制と同様の扱いとする。
	8	P128 13.1 b	フリーのポイント 破線の外	11人制と同様の扱いとする。
	9	P129 13.2 d e	FH フリック・スクープの使用可能	11人制と同様の扱いとする。
	10	序文参照	FH変更に伴い、1m・セパレートアクションの項 削除	11人制と同様の扱いとする。
	11	P138 13.9	PS時の「認定ゴール」文言が完全削除	11人制と同様の扱いとする。
規則の適用	1	守備側がバックラインに向けてボールを故意にプレイ下場合、躊躇なくPCをとること		左記の4つのことに関しては、規則自体が変更になったものではない。「故意かどうか」とか「少々なら許される」といった曖昧な部分について、しっかりと見定めて、なおかつ「公平・公正」で「一貫性のある判定」に心がけて判定する。ということを鮮明に記述したということである。今までにも指導してきたことであるが、特にこの4点については、しっかりとした判定を心掛けるということである。
	2	「肩より上のボールをスティックでプレイした場合」を厳密に判定し、曖昧にすべきではない		
	3	オブストラクション、特にシールドイング（スティックで隠すこと）を厳密に罰する		
	4	FHでのボールの静止を厳しく管理すること		